

健康科学部



学部長 鈴木 幹子

看護学科所属
担当科目：助産学概論、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ 他



新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。健康科学部では「その人らしい生活を支援する」というコンセプトを重視しています。今年は、能登半島地震発生という波乱の幕開けとなりました。被災された人々が一日も早く日常を取り戻されることを願うばかりです。災害現場でも看護やリハビリテーションの専門職は重要な役割を担っています。学生の皆様には未曾有の災害時においても活躍できる医療人になっていただきたいと思ひます。そのためには医療の知識や技術だけではなく、態度も大切です。個々の力を合わせて、一緒に多くのことを学んでいきましょう。



看護学科長 山口 佳子

担当科目：保健医療福祉行政論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅱ 他

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。看護学科は今年で開設 11 年目となりました。その教育理念は、建学の精神「自主自律」としての職業的自律性を礎として、生命の尊厳を守り、科学的根拠に裏付けされた知識・技術を用い、あらゆる年代における人々の健康の保持増進と生活の質の維持に貢献できる人材を育成することです。超高齢多死社会の到来、デジタルトランスフォーメーションなど時代の変化に対応しつつ、これまでも、これからも、「その人らしく生活する」を支援できる看護専門職の育成に取り組んでいきたいと思ひます。

リハビリテーション学科長 米津 亮

担当科目：発達と理学療法学、発達と理学療法学演習、人間発達学 他



入学してきた皆様が、作業療法士や理学療法士として未来を築き、活躍できるよう学科教員全員でバックアップします。学科では、「女性学」と「グローバル」を軸に見据え、本年度より新カリキュラムを運用します。4年間の大学生活でリハビリテーションに必要な知識と技術、そしてヒトに寄り添える優しさを培い、社会のニーズに応えられるリーダーとなる女性セラピストの育成を目指します。

子ども支援学部



学部長 保坂 遊

子ども支援学科所属
担当科目：子どもと表現、子どもの造形Ⅰ・Ⅱ、保育内容「表現」の指導法 他



本年度より子ども支援学部長を拝命いたしました。私は、一人ひとりが自分の可能性を十分に発揮し、互いを尊重しあえる社会を築くことが、とても重要なことだと日々感じています。そして、次世代に生きる子どもたちの豊かな育ちのために求められる保育者養成の重要性を考え、「子ども支援」の本質を常に追求していきたいと思ひます。本学部学科の教育方針「すべての子どもの可能性を広げられる保育者」の育成を目指し、幼児教育・保育を基盤とした教育プログラムのブラッシュアップに推進して参りたいと思ひます。



子ども支援学科長 小櫃 智子

担当科目：保育実習指導Ⅰ・Ⅱ、保育実習Ⅰ・Ⅱ、保育指導論、保育内容「人間関係」

“子どもたちが幸せに生きること”のできる社会であってほしいと願っています。障害があっても、病気があっても、どのような状況におかれていても、適切な支援があれば子どもたちを笑顔にすることができるでしょう。子ども支援学科では、子どもたちの幸せのために、様々な状況におかれた子どもたちに適切な支援ができる高い専門性を有した保育者を育てます。そのために、特別支援、健康保育、子ども芸術・文化の3つの科目群を構成し、豊かなカリキュラムを用意しています。学内にある保育園、放課後等デイサービス、クリニックと連携し、実践的な学びも充実させています。学生の学びの意欲に応え、教員も研究を深め常に最新の授業づくりをしていきたいと思ひます。

短期大学部



保育科長 鈴木 隆

担当科目：保育内容演習(健康)、保育内容の理解と方法A(体育)、幼児と健康 他



6年前から3年前までの3年間、保育科長を務め、再登板になります。保育を取り巻く状況は、刻々と変化しています。保育科は伝統を守りながらも、時代にマッチした保育者の養成、特に現場に通用するアクティブな保育者を育てようとしています。皆さんがここで学び、力をつけて社会に出て行くことを教員一同全力でサポートします。その結果として、ひとりでも多くの子どもたちが幸せに生き生きと育っていける社会を、ともに実現していきましょう。

令和6(2024)年度
学部長・学科長メッセージ

人文学部



学部長 小池 新

英語コミュニケーション学科所属
担当科目：Global Study Program G、情報学概論Ⅰ、Webデザイン研究 他



人文学部は、英語名称の Faculty of Humanities が表わすように、人に関する様々な側面の教育と研究を推進しています。3学科とも実学を重視し、実習や実践が多くあります。これらの学びの成果は、卒業後すぐに実社会で活用できます。一方、人文学部では理論や考え方など、真理の追求も、ゼミなどの専門教育を通じて支援します。後者は、人間の本质に迫るものであり、知識や技能ではなく自ら学びを追求した過程自体に価値があります。AIによる社会の変容に関わらず、長い人生の歩みの中で徐々に学生時代に学んだその価値を実感されるでしょう。生涯を通じて活かせる学びに、4年間真剣に取り組まれることを願っています。



英語コミュニケーション学科長 横田 由美

担当科目：英語の成り立ち、英語学英語史概論、Global Study Program H

令和5年度から始まった新カリキュラムでは、グローバルをテーマにした英語に関わる協働学修を行う科目が新たに加わりました。それには海外の人とのコミュニケーションがますます盛んになる社会状況において、他者もつ、自分とは異なる様々な考え方や感性に直接触れ、そこから刺激を受けて、自らの考えを更新し学び合う互恵的プログラムが複数用意されています。そして、4年間を通じて社会人基礎力としての「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」を持った学生の育成を目指していきます。

心理カウンセリング学科長 福井 至

担当科目：認知行動療法、学習・言語心理学、感情・人格心理学 他



心理カウンセリング学科では、養護教諭、社会調査士、公認心理師の養成を目標としています。社会調査士は、将来さらに多くの人材が必要となるデータサイエンティストとして活躍するための資格です。心理カウンセリング学科では、学部で養護教諭一種と社会調査士の資格が取得できます。また大学院まで行って公認心理師になろうという学生には公認心理師法で指定されている25科目が履修できるようになっています。すでに養護教諭も公認心理師も、100名以上の卒業生が社会で活躍しています。



教育福祉学科長 田中 恵美子

担当科目：障害福祉論Ⅰ・Ⅱ、社会福祉現場実習、社会福祉現場実習指導、社会福祉演習 他

ずいぶん前のことですが、自分が大学生になったころのことを思い浮かべると、期待やワクワクする思いに加えて、世の中に対する漠然とした怒りや不安があったと思ひます。大学生になるまでの様々な経験の中で、皆さんは自分の可能性を小さく見詰めてしまっていないでしょうか。年を重ね、様々な期待から自由になったこの年齢になって、今思うことは、好きなことはやれる、自分には無理だと思っていたこともやりたいと思うと意外とやれる力が人にはあるということです。悔いのない人生を生きてほしいと思ひます。

栄養科長 土屋 京子

担当科目：調理学、調理科学実験、基礎調理学実習、応用調理学実習 他



栄養科では栄養士や教職(中学家庭、栄養教諭)、フードスペシャリスト等の資格取得に向けて、日々勉強に励んでいます。これらの資格は、皆さんの将来に役立つだけでなく、社会にも貢献できるのです。まず、普段から「食」に興味・関心を持つことが大切です。私達は毎日食事をしていますが、ここで摂取した食物は、私達の身体を作っていくと共に、心の栄養も満たしてくれるのです。心身共に健康の維持・増進を目指していきましょう。そして、新入生並びに在校生の皆さんには、本学の一員であることの自信と誇りを持っていただきたいと思ひます。